

第99回

休日の午後のコンサート

2023.12.3(日) 14:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
Sun. Dec. 3, 2023, 14:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

〈クリスマス in ニューヨーク〉 〈Christmas in New York〉

指揮とお話 円光寺雅彦 Masahiko Enkoji, conductor & speaker

ヴァイオリン 廣津留すみれ* Sumire Hirotsuru, violin

コンサートマスター 三浦章宏 Akihiro Miura, concertmaster

アンダーソン：舞踏会の美女(約3分)

Anderson: Belle of the ball (ca. 3 min)

モンティ：チャールダーシュ* (約4分)

Monti: Csárdás (ca. 4 min)

エルガー：愛のあいさつ* (約3分)

Elgar: Salut d'amour (ca. 3 min)

サラサーテ：ツイゴイネルワイゼン* (約8分)

Sarasate: Zigeunerweisen (ca. 8 min)

— 休憩 intermission —

ワルトトイフェル：スケーターズ・ワルツ(約7分)

Waldfel: The Skaters' Waltz (ca. 7 min)

チャイコフスキー：バレエ組曲『くるみ割り人形』(約25分)

Tchaikovsky: The Nutcracker suite (ca. 25 min)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 / Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

◎すべてのお客様に、快適にお楽しみいただくために / Dear audience

♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned. ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed. ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance. ♪ Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

出演者プロフィール

指揮とお話 円光寺雅彦

Masahiko Enkoji, conductor & speaker

桐朋学園大学指揮科卒業。指揮を斎藤秀雄氏、ピアノを井口愛子氏に師事。1980年ウィーン国立音楽大学に留学しオトマール・スウィトナー氏に師事。これまでに東京フィル指揮者、仙台フィル常任指揮者、札幌交響楽団正指揮者、名古屋フィル正指揮者などを務め、数多くの公演を共にしながらオーケストラの飛躍的な発展に貢献してきた。N響、読響、新日本フィル、東響、群響、大阪フィル、広響、九響をはじめとするほとんどの国内オーケストラ、海外ではブラハ響、BBCウェールズ響、ベルゲン・フィル、フランス・ブルターニュ管弦楽団に客演し、深い音楽性との確かな指揮で多くの聴衆を魅了。テレビ等の番組にも定期的に出演するなど、幅広い活躍を続けている。



©Takafumi Ueno

ヴァイオリン 廣津留すみれ

Sumire Hirotsuru, violin

大分市出身。高校在学中に NY・カーネギーホールにてソロデビュー。ハーバード大学(学士)とジュリアード音楽院(修士)を卒業。世界的チェリストのヨーヨー・マと度々の共演を経て、米国にて演奏活動を拡大。講演演奏会シリーズの開催や地元大分での英語セミナー開催など演奏の傍ら多方面で活躍中。国際教養大学特任准教授、成蹊大学客員講師。テレビ朝日『羽鳥慎一モーニングショー』金曜レギュラー。著書に『超・独学術』(KADOKAWA)、『アメリカ生活で磨いた ネイティブがよく使う英会話フレーズ』(集英社)など多数。2022年にファースト CD「メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲+シャコンヌ」をリリース。



©Yuji Takeuchi

プログラム・ノート

解説=柴田克彦

クリスマスに相応しい美しい作品の数々をお届け

今回の「休日の午後のコンサート」は〈クリスマス in ニューヨーク〉。アメリカのジュリアード音楽院とハーバード大学出身のヴァイオリニスト、廣津留すみれに因んだこのタイトルが示すように、今回は彼女が弾くヴァイオリン小品が大きな見どころとなります。演奏されるのはいずれもヴァイオリンの看板曲といえる作品ですから、その腕前や音楽性をストレートに感知することができます。なお、導入となる「舞踏会の美女」の作曲家アンダーソンもハーバード大学の出身です。

後半はクリスマスの季節に相応しい音楽。「スケーターズ・ワルツ」は、最近ライブでリアルに聴く機会が少ないので、今回は貴重な演奏となります。そして『くるみ割り人形』は、まさしくクリスマス・イヴにまつわるバレエ。こちらは夢見るように美しい曲が続きます。これら親しみやすい作品の数々を、NHK「名曲アルバム」等で小品演奏の手腕を発揮し、当シリーズの常連でもある円光寺雅彦が、明快に聴かせてくれます。



クリスマス気分を彩るきらびやかな作品の数々をマエストロ円光寺のタクトとトークでお楽しみください

©上野隆文

幕開けは優雅できらびやかなワルツ



コンサートはリロイ・アンダーソン(1908-1975)の「**舞踏会の美女**」で幕を開けます。アンダーソンはアメリカが生んだライト・クラシックの大家。アーサー・フィードラーが率いるボストン・ポップスを中心に活動し、「タイプライター」や「ラッパ吹きの休日」など、ウィットに富んだ小品を数多く残しました。「舞踏会の美女」は1951年作曲された流麗で優雅なワルツ。原題の「Bells of the Ball」は語呂合わせで付けられたといえます。さらには中間部に入る鉄琴(ベル)の音も、美女(ベル)にかけられているとのことなので、実に凝っています。曲自体は、2拍目にアクセントが付くウィンナ・ワルツのスタイルで書かれた、アンダーソンの中でもきらびやかな音楽です。

哀愁を帯びた旋律と軽快な速弾きの緩急



ここからはヴァイオリンをフィーチャーした作品が3曲続きます。まずは**ヴィットーリオ・モンティ**(1868-1922)の「**チャールダーシュ**」。イタリアのヴァイオリニスト兼作曲家モンティの作品の中で唯一有名な1曲です。でもこの曲、実は元タマンドリン用に作られました。しかしながらヴァイオリンの音色や技巧を生かすのに最適な曲調ゆえ、ロマの楽団やクラシックのヴァイオリニストの愛好曲となり、そうした形で広く普及しました。



ハンガリーの民俗舞踊、チャールダーシュを描いた銅版画(作者不明、1892年)

チャールダーシュは居酒屋(チャールダ)における兵士募集の踊りが発展したハンガリーの民俗音楽。哀愁を帯びた遅い部分と、速弾きで知られる快速部分が対比されます。

妻との婚約記念に贈った優しく温かな小品

おつぎは**エドワード・エルガー**(1857-1934)の「**愛のあいさつ**」。エルガーは、近代イギリス音楽の父と称される作曲家で、本国では多大な尊敬と人気を集めています。「愛のあいさつ」は、お馴染みの行進曲『威風堂々』と並んで世界的にポピュラリティを得ている作品。オリジナルは、1888年に妻キャロラインとの婚約を記念して彼女に贈ったピアノ用の小品(経緯には他の説もあります)ですが、翌年編曲されたオーケストラ版や、今回のようなヴァイオリン版で人気を高めました。ちなみに、エルガーのピアノの生徒だった8歳年上のキャロラインは、夫を終生励まし、作曲生活を支えた賢夫人として知られています。曲は、いかにも愛情のこもった、優しく温かな音楽。シンプルなメロディはこの上なくチャミングです。



妻キャロラインとエルガー

超絶技巧を駆使した野趣と哀感に溢れた音楽

ヴァイオリン作品の最後は**パブロ・デ・サラサーテ**(1844-1908)の「**ツィゴイネルワイゼン**」。サラサーテはスペイン生まれのヴァイオリニスト兼作曲家。歴史的な名奏者だった彼は、自身が弾くための小品を数多く残しました。その代表曲が1878年に出版された本作です。ドイツ語で「ジプシーの歌」を意味するタイトル通りの野趣と哀感が溢れた音楽で、以下の3部分が続けて演奏されます。第1部(モデラートーレント)は、憂いに充ちた旋律が、技巧的な動きをまじえながら、たつぷりと奏されます。第2部(ウン・ポーコ・ピウ・レント)は、甘く切ない歌がしっとりと流れます。第3部(アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ)は、超絶技巧が耳を奪う情熱的な終結部です。



パリの上流社会で大流行していたスケートを描いたワルツ

後半最初は、オールド・ファンには懐かしい音楽、**エミール・ワルトイフェル**(1837-1915)の「**スケーターズ・ワルツ**」です。フランス生まれのワルトイフェルは、まずナポレオン3世の宮廷に仕え、パリ万博でヨハン・シュトラウス2世とワルツ合戦を行って名を上げました。その後は“フランスのワルツ王”としてヨーロッパ各地で活躍。250を超える舞曲を作曲し、ワルツ「女学生」も一時人気を集めました。しかしその作品は最近あまり演奏されていません。1882年に作曲された「スケーターズ・ワルツ」は、いかにもフランスらしい優雅なワルツ。当時パリの上流社会で大流行していたスケートに興じる人々の姿を描いた作品で



「ブローニュの森」のスケート場(レノワール画、1868年)

す。曲は、ウィンナ・ワルツと同様に、序奏と4つのワルツとコーダで構成され、ホルンに導かれて始まる有名な第1ワルツが全体の中心をなしています。伸びやかな旋律が優美な雰囲気醸し出し、第4ワルツの美しさも光っています。

クリスマス・シーズンにぴったりなバレエ組曲

最後を飾るのは、ロシア最大の巨匠**ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー**(1840-1893)の**バレエ組曲『くるみ割り人形』**です。本作(全2幕)は、『白鳥の湖』『眠りの森の美女』に続くチャイコフスキー三大バレエの第3弾。最晩年の1892年、ペテルブルグのマリンスキー劇場の依頼で作曲され、同年12月に初演されました。物語は「少女クララは、クリスマス・イヴにくるみ割り人形をもらう。人形は彼女の夢の中で王子に変身。ねずみとの戦いで王子を救ったクララはお菓子の国に招待され、様々な踊



りの歓迎を受ける」といった楽しいファンタジー。円熟の書法を得意の舞踊音楽に結実させた傑作として名高く、クリスマス・シーズンの定番演目ともなっています。今回演奏されるのは、バレエの初演に先がけて作曲者自身が編んだ全8曲のオーケストラ用組曲。これも1つの定番です。

1. **小序曲**：子供の世界へ誘うチャーミングな音楽。低音楽器を省くことによって、軽妙で明るいムードが醸し出されます。
2. **行進曲**：子供たちが踊る、軽快で歯切れ良いナンバー。
3. **こんぺい糖の踊り**：、開発されたばかりのチェルスタを史上初めて使用した楽曲。珠玉のようなその響きにバス・クラリネットが応答する夢幻的な音楽です。
4. **ロシアの踊り(トレパーク)**：ロシアの農民舞踊の形をとるエネルギッシュな音楽。
5. **アラビアの踊り**：コーヒーの精が踊る、東洋風でエキゾチックな1曲。
6. **中国の踊り**：ファゴット等が刻むリズムに乗ってフルートが活躍するコミカルな音楽。
7. **あし笛の踊り**：フルートの弾んだ動きが特徴的な、軽快で爽やかなナンバー。
8. **花のワルツ**：こんぺい糖の精の侍女たち(演出によっても変わります)が踊る、全曲中もっとも有名な1曲。序奏から、美しいハーブ・ソロを経て、3つの豊かなワルツが展開されます。ホルン4本のアンサンブルなど、管楽器の巧みな用法も光ります。



『くるみ割り人形』はクリスマスオーナメントでも定番

しばた・かつひこ(音楽ライター)／音楽マネージメント勤務を経て、フリーランスの音楽ライター、評論家、編集者となる。雑誌、公演プログラム、Web、宣伝媒体、CDブックレット等への寄稿、プログラム等の編集業務のほか、一般向けの講演や講座も行うなど、幅広く活動中。著書に「山本直純と小澤征爾」(朝日新書)、「吹奏楽編曲されているクラシック名曲集」(音楽之友社)。